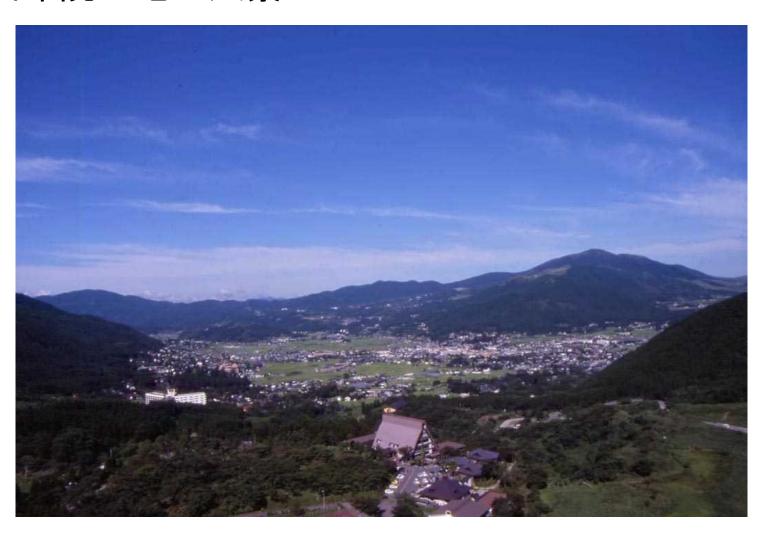
住んでよし、訪れてよしの視点から~地域と公共交通



(一社)由布市まちづくり観光局 代表理事 桑野 和泉

由布院盆地の風景









<地域の概況>

・由布市(ゆふし)は、大分県のほぼ中央に位置し、 北に由布岳、南に黒岳など標高1000m級の山々が 連なる、豊かな自然に囲まれた小都市。 一部地域 は「阿蘇くじゅう国立公園」に指定されている。



- ・2005年10月1日に湯布院町、挾間町、庄内町が合併し、現在の由布市を形成。 旧湯布院町を中核とした観光都市であると共に、隣の大分市のベッドタウンと いう異なる性格を併せ持つ。
- ・主な産業は、医療・介護等、公務、不動産、建設、宿泊業の5つで、中でも宿泊 業の割合は他都市と比べて高く、由布市の特徴的な産業である。
- ・行ってみたい(あこがれ)温泉地ランキングで12年連続1位を獲得するなど国内有数の温泉地である「由布院」、鎌倉時代が開祖と言われ湯治場として栄えた「湯平」、強酸性泉が特徴の「塚原」で構成される豊かな温泉群は、「国民保養温泉地」にも指定されている。
- ・「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づく国立公園満喫プロジェクトにおいて「阿蘇くじゅう国立公園」が選定されたことを機に、「国立公園ステップアッププログラム2020」に関する取り組みはもちろん、九州観光の拠点の一つとして他の周辺エリアとも連携を進めながら国内外からの誘客を促進している。

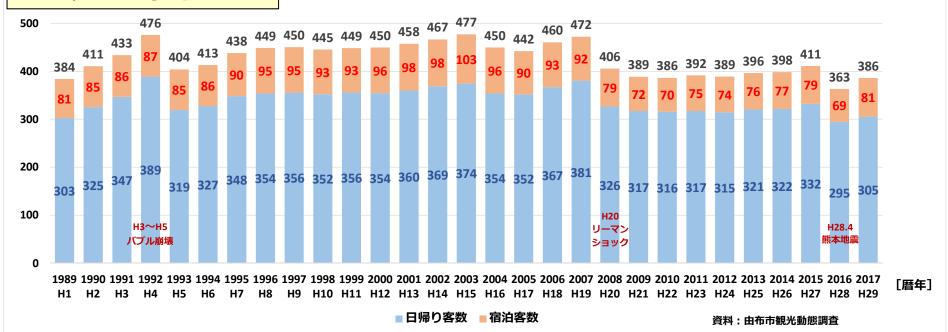
<地域の観光現況・課題>



- ・昭和30年代後半より生活保養温泉地を目指した取組みが行われ、現在では約380万人もの観光客が訪れる日本有数の温泉観光地となっている。
- ・外国人観光客も平成17年は約4.6万人だったが、平成29年には約47.5 万人に増加し、この12年間で約10倍に増加。
- ・外国人宿泊客数も平成18年の約7千人から平成29年の約11.5万人に増加し、この12年間で約18倍に増加。
- ・由布院への鉄道アクセスは、博多-別府間を結ぶJR特急ゆふいんの森号により乗り入れが主流。 その他、国道210号や、由布岳・別府に抜ける県道216号、県道11号(やまなみハイウェイ)等の幹線道路がまちの周囲を走り、広域交通アクセスを担保。
- ・一方まちなかは、観光車両の増加により交通渋滞が激化し、地域住民の生活や緊急車両の通行に支障をきたしている。また、歩行者の安全性低下や生活環境が悪化し、まち並み景観にも悪影響を与えている。

由布市の観光客数の推移

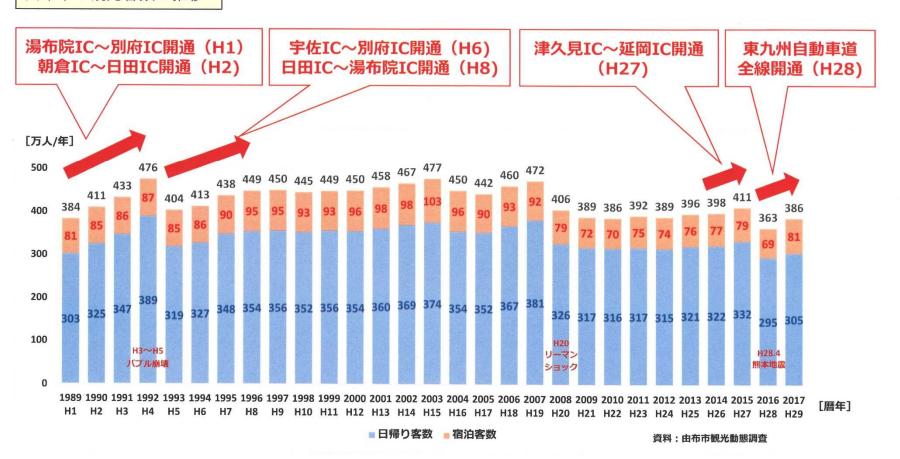
由布市の観光 客数の推移



高速道路の開通と由布市の観光客数の推移

・由布市の観光客数は、バブル崩壊、リーマンショック、熊本地震などの影響で一時的に落ち込むことがあったものの、 高速道路の開通により増加傾向にあります。

由布市の観光客数の推移



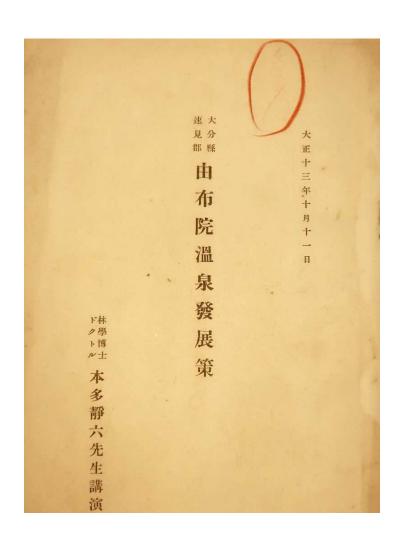


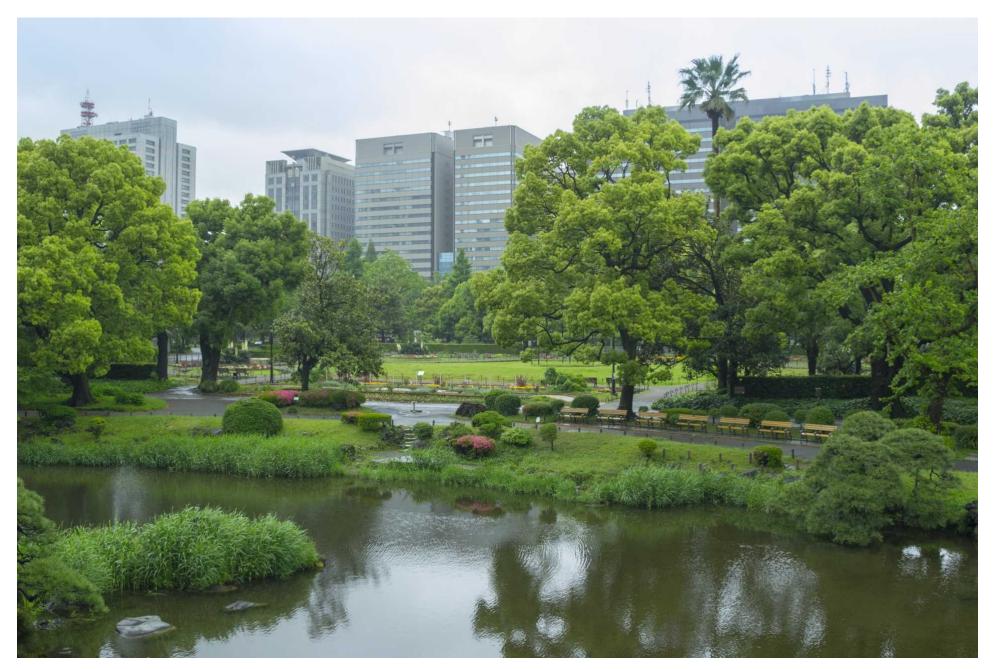


由布院 百年の計「由布院温泉発展策」









日比谷公園

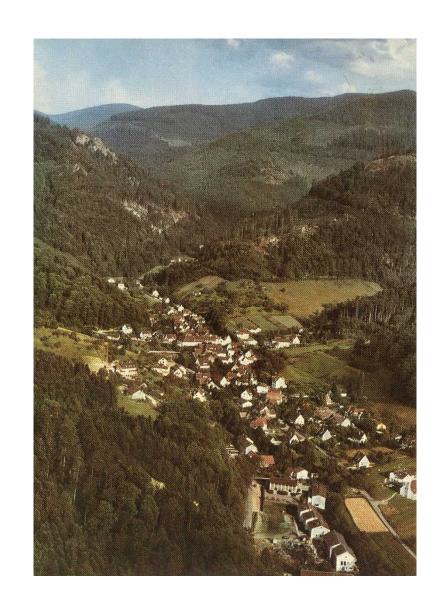


明治神宮の森

由布院 百年の計「ヨーロッパ視察旅行」









- 〇牛喰い絶叫大会
- 〇湯布院映画祭
- ○ゆふいん文化・記録映画際
- ○ゆふいん子ども音楽祭
- 〇ゆふいん十月祭・食文化フェア
- 〇ゆふいん音楽祭









1泊より2泊 3宿連泊の提案 多様な選択肢の連泊



宿から宿へ 開かれた宿づくり









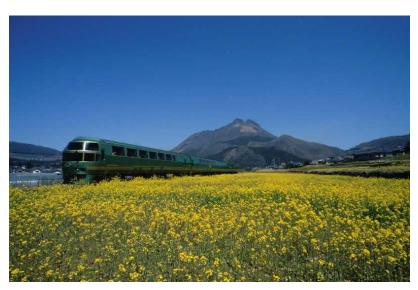


© NHN JAPAN Corp.











潤いのある町づくり条例(湯布院町全域)

【条例の主な内容】

- ●1000平方メートルを越える宅地の造成、50立方メートルを越える地下 貯蔵施設、高さが10メートルを越える建築物、2階建て以上の特殊 建築物、規則で定めたボーリングや打ち込み行為を対象とする。
- ●開発を極力抑えようとする地区を定め、それにのっとって開発行為、保全活動を相互に調和させながら、町全体の成長を管理する。また、環境整備への貢献(環境整備協力金)を義務づける等。

その他指定された行為を行う場合は市に届出が必要で、 まちづくり審議会(湯布院町内の有識者等にて構成)にて審議される。

条例の考え方は、「お住みになりたいのなら、湯布院の町づくりの考え、 ルールに従って、一緒に参加して下さい」ということを基本にしています。

ゆふいん建築・環境デザインガイドブック

『ムラ』の風景をつくる

~農村文化に支えられる、いやしの里の豊かな暮らしの風景~

ゆふいん建築・環境デザインガイドブック

增補改訂版



2011年 3月 ゆふいん建築・環境デザイン協議会 由布市

心得

盆地の程よい大きさを大切にし、 小振りなつくりとする ■ 大きなものは、ゆふいんの風景には似合わないの で避けるべきである。大きな看板を設置すること は、先人達がこれまでに、盆地内の限られた平場 の中で、自然景観を尊重しながら細やかに暮らす ことでつくり出してきた「ゆふいんならではの風 景」のパランスを壊してしまうことである。

① 由布山を敬い、眺めを大切にし、高さを低く抑えていく



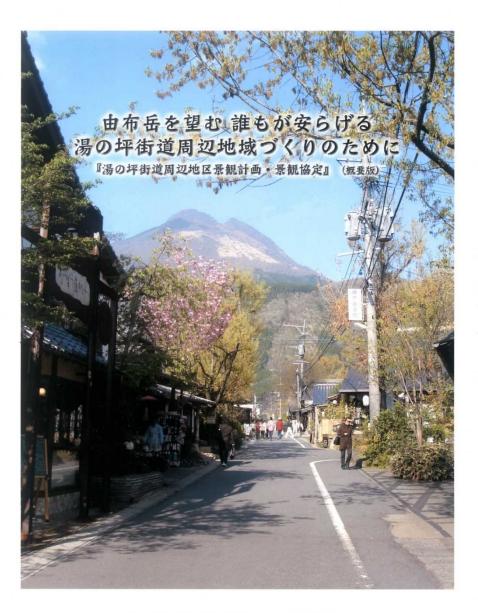
○ 建物よりも高い看板は立てないことで、由布山への眺めを遮らないようにする。



)高さを低く抑えた建物が並ぶ通りでは、その連続したスカイラインを壊さないようにしたい。建物よりも高い看板を立てないことで、印象的な由布山への眺望を守ることができる。

看板に関するデザインガイド

湯の坪街道周辺地区景観計画・景観協定



湯の坪街道周辺地区景観づくり検討委員会

由布院盆地景観計画



由布院盆地における景観形成の基本方針

1. 自然景観の維持・保全

盆地を抱く山々、豊かな山林、盆地内を流れる河川など、由布院盆地は豊かな自然環境に囲まれています。 特に、由布岳と田園の織り成す風景は、由布院に暮ら す人々の心の拠りどころとなっています。

この豊かな環境・景観を大切に守ってきた先人の営み を敬いながら、由布院らしい風景の基盤となっている 自然環境を維持・保全していきます。



2. 農村・田園風景の維持・保全

水田や草原は、農業生産の場であるのみならず、それらが由布岳をはじめとした山や山林と織り成す風景は、 由布院に暮らす人々にとって心の風景となってきました

この風景が永年の営み・活動により守られてきたこと を敬いながら、由布院らしい風景を構成する重要な要 煮である水田や草原を維持・保全していきます。

3. 市街地における良好な景観形成

由布院に暮らす人々は、盆地の限られた空間を慎ま しく住みこなしてきました。小規模な建物が点在する 由布院盆地の佇まいと良好な住環境は、この地に暮ら す人々の、屋内外の設えやそこでの営み・活動の隅々 まで気を配り、周りの家々や環境への影響を意識し、 配慮する心に支えられてきました。

この風景・住環境を守ってきた「配慮の心」を尊重し、 控えめな中に個性が光る由布院らしい町並みを保全・ 形成していきます。





各種施策の進め方 地域づくりの精神を継承する仕組みの構築

自然と人の生活とが織り成す由布院盆地の風景は、農 林業などの営みや、住民発意のまちづくりによって守 り育まれてきました。

こうしたまちづくりの精神と取組みを次世代に引き継いでいくために、地域住民・事業者などの景観・環境 への関心を高め、官民の情報共有や、対話と協議に基づく景観まちづくりを推進していきます。

滞在型保養温泉地 景観•環境

1990年 潤いのある町づくり条例

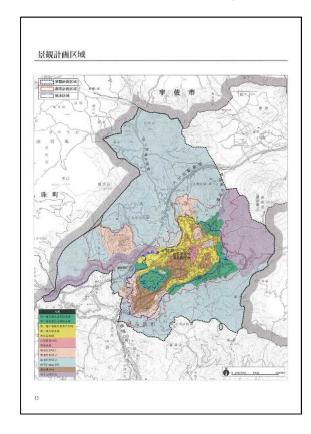
1996年 由布院温泉観光基本計画

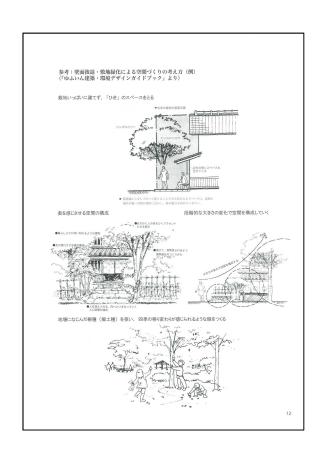
1998年 由布院建築・環境デザインガイドブック(第1版)

2002年 社会交通実験

2008年 湯の坪街道周辺地区景観計画・景観協定

2013年 由布院盆地景観計画





「新・由布院温泉観光基本計画」の概要

由布院を取り巻く 環境の変化	(1)外国人観光客の増加/(2)入込み客(日帰り客)の増加/ (3)熊本地震等の災害の発生/(4)外部からの参入の増加/ (5)観光まちづくりの手法の変化
由布院観光の 課題と方向性	1.社会環境や外部環境の変化を踏まえ、受入態勢を強化しなければならない → FITの増加やフリーライダーを許さないための対応が必要 2.過去を振り返り、未来を見つめ直さなければならない → これからも今のままでよいのか、何を変換していくべきかを検討することが必要 3.目指すべき方向性を確認し、地域で共有しなければならない → 今後の目指すべき方向性、それぞれの役割を地域内で周知することが必要 4.持続的な発展のために地域のルールを再構築しなければならない → 地域合意による計画に位置づけられた自主ルールや定量的な指標が必要
由布院観光の理念	①由布院の観光を支える大きな柱は『自然』であり、大事に育まれてきた『環境』『景観』が最大の観光資源である ②程よい大きさの由布院盆地の中で、生活のスケールに合った心地良さと生活を豊かにする小味で多様な魅力が安らぎの空間と個性あるまちを創る ③1人ひとりの顔が見える交流が、無限に広がる情報や物の流れの中から新たな価値を見出し、生活を豊かにしていくとともに、魅力あるものが創造されていく
由布院観光のコンセプト	『豊かな暮らしと交流が共存する滞在型保養温泉地』
想定する主要ターゲット の考え方	由布院観光の理念の通り、由布院の大きな魅力の一つは、由布院に住む個々の人の生き方がベースとして存在し、そこに様々な交流が生まれていることである。こうした交流から生まれる様々な価値を今後も大事にしていくためには、 <u>由布院の理念を理解し、共感してくれる人</u> に由布院に来てもらうことが最も重要となる。
戦略	1.由布院観光の魅力の根源である温泉滞在を地域一丸となって推進する 【滞在化推進戦略】2.由布院温泉での観光まちづくりを官民一体となって力強く推進する 【観光まちづくり推進戦略】3.由布院温泉の観光地としてのブランドや推進体制など観光基盤を整備・充実させる 【観光地としての基盤整備推進戦略】4.由布院温泉のインフラを含めた滞在環境を抜本的に見直し、強力に整備を推進する 【滞在環境整備推進戦略】

由布院観光の理念

- ・由布院の観光を支える大きな柱は『自然』であり、大事に育まれてきた『環境』『景観』が最大の観 光資源である
- ・程よい大きさの由布院盆地の中で、生活のスケールにあった心地よさと生活を豊かにする小味で多様な魅力が安らぎの空間と個性ある街を創る・一人ひとりの顔が見える交流が、無限に広がる情報や物の流れの中から新たな価値を見出し、生活を豊かにしていくとともに、魅力あるものが創造されていく

今後もこの理念を磨き上げ、継承していくために、宿泊施設や物販・飲食施設といった観光関連施設について、周辺店舗や地域全体に溶け込めるよう開発規模を3,000 ㎡(延床面積)以下とすることを基本とし、外観については「由布院盆地景観計画」および「湯の坪街道周辺地区景観計画」の基準を遵守するとともに、これまでの由布院における商売に対する考え方や行動を守っていくことが大事となる。(次頁「湯の坪街道周辺地区景観協定・紳士協定」参照)

また、宿泊施設については、由布院観光を持続可能な地域とするため、従前より調整を図ってきた開発規模である15室程度(最大で30室程度)とすることを基本とする。







由布市ツーリストインフォメーションセンター 2018年4月OPEN 設計: 坂茂建築設計





2階は、旅に関する図書約2000冊が閲覧可能な「旅の図書館」と 由布岳を望む展望デッキ



由布院観光辻馬車ルート図

アシたのアシプロジェクト





「乗る」と「歩く」が楽しくなる。



New Object for Lively Community



●「アシたのアシ プロジェクト」 とは?

「アシたのアシ」とは、由布院に暮らす人にも、由布院を訪れる人にも快適な「未来の乗り物」や「未来の交通システム」を指す言葉であり、その実現へ向けて挑戦する組織活動が「アシたのアシプロジェクト」です。

「アシたのアシ」は、利用者の快適性に加え、地域環境・地球環境への取組みも見据え、「明日の楽しい&頼もしい足」を実現するという、私たちの「宣言」でもあります。



Nolc / ノルク」とは?

「Nolc / ノルク」は。今回導入する「e-COM82」の愛称です。 生き生きとした地域を実現するための新しい物体(乗り物)という意味付けをしています。

時速20km/h未満という「グリーンスローモビリティ」での域内移動は、暮らす人にも訪れる人にも、新しい経験をもたらすはずです。 そのひとつが、乗ることと歩くことの「連続性」。 少し乗って景色を楽しみ、少し歩いて買い物を楽しみ・・・。 乗る、歩く、乗る、歩く、乗る・・・・。

「ノル」と「アルク」が、ひとつになることから生まれる心地よさ。「ノルク」は、未来の移動を表す「動詞」でもあります。











2021年10月23日(土) 朝刊



日使い」「観光」の2ルー

^{震、料}き本格導入へ最終検証

ーの2ルート。「日使い」 は、JR由布院駅を起点に は、JR由布院駅を起点に まかりで乗り降りできる。利用者の好きな時間に 予約して乗車するデマンド 方式。専用のアプリから予 約する。士口祝日はサポー 乗りのカートタイプを活用 乗りのカートタイプを活用 10時~午後5時 に出て十年 後1時までは休め)。 7人 小学生以下100円。 乗りのカートタイプを活用乗りのカートタイプを活用



従来の交通手段を補完湯布院で報告会

由布市湯布院町川上のゆした。 ふいんラックホールであ った。

くい-などとメリットを 向いた乗り物。景色も車

【由布】時速20%未満 説明。近距離間で少人数 で走る電動車「グリーン を運ぶため、高齢者の移 スローモビリティ (グリ 動や観光周遊など、従来 スロ)」の報告会が7日、 の交通手段を補完すると

東京大公共政策大学院 の三重野真代・特任准教 環境省などの主催。地 授は「排ガスが出ないの 元住民ら約30人が参加し で、景観を大事にしてき た。国交省環境政策課が た湯布院にはぴったりだ グリスロについて▽環境 ろう」と話した。オンラ 出ないので事故が起きに 「坂道や狭い場所などに べた。



に優しい▽景色をゆっく インで参加した名古屋大 より見えるので地域のこ り楽しめる▽スピードが 大学院の加藤博和教授は とが分かりやすい」と述

(池田美香)

湯布院

大 今 合 斥

両を導入する。需要の有無や、料金の妥当性を検証し、た。有料化し、日使いに加えて観光に特化したルートをた。有料化し、日使いに加えて観光に特化したルートを、有料化し、日使いに加えて観光に関いません。 証し、本格導入の可能性を探る。3年計画の最終運ートを設定。新たに小回りの利くカートタイプの車ーゲを設定。新たに小回りの利くカートタイプの車「グリーンスローモビリティ」の実証実験が再開し

りタイプを活用する。 りタイプを活用する。 りタイプを活用する。

(池田美香)

環境省の実証事業の一環環境省の実証事業の一環環省の実証事業の一環があるかを検討している。 期間中、利用者からアンケートを取り、料金の妥ンケートを取り、料金の妥当性や本格導入した際には別れる。 対している。 はないる。 は

〇円、小学生以下千円。A 在する。料金は大人150 となり、各所に15分ほどが 所を巡る。運転手がガイ!

方針。

最終報告書は

年度内 市総合政策課は「便利さ

37







